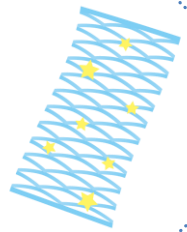


みんなで子育て No.4

バックナンバーは
こちらから▶



環境エネルギー生活部 県民生活課
家庭教育推進専門職 : 辻
Tel 058-272-8206



7月7日は、みなさんご存じのとおり「七夕」ですね。昔の中国のお話がアジアの国々に伝わり、それぞれの国でアレンジされているそうです。

「七夕」では、短冊に願い事を書いて、笹に括りつけますが、七夕飾りには、この短冊の他に、吹き流し、網飾り・貝飾り、紙衣（かみこ）、巾着、くずかご、千羽鶴、菱飾りがあります。それぞれの飾りには、上達、豊漁・豊作、金運アップ、長寿、人とのつながりの継続等、いろいろな願いが込められているのだそうです。

皆さんの願いごとは何でしょうか？ あるアンケートによると第1位は、「健康」だそうです。やはり「元気」に生活できることが何よりですね。

短冊は、青、赤、黄、白、紫（黒）の五色が使われますが、願いによって色が決まっているようです。あなたの願いごとは何色が調べてみてください。

七夕飾りは、折り紙を使って作ることができるものが多いので、親子で作って飾ってみてはいかがでしょう。たかとみこども園では、年長さんが折り紙で飾りを作っていました。（上の画像）

現行の暦の7月7日は梅雨時で、雨天や曇天のことが多く、この日にしか会うことが許されていない「織姫」と「彦星」にとっては、不運だと考えている方が多いかもしれませんが、本来の「七夕」は旧暦の7月7日なので、新暦に置き換えると8月初旬～下旬のいずれかの日となります。今年、2026年は「8月20日」がその日にあたります。8月は比較的天気安定する時期なので、会うことができる確率は、実は高いのです。もし、7月7日の天気が悪く、子どもが残念がっていたときは、このお話をお子さんにしてあげてください。



たかとみこども園 「楽しく水遊びができるように！」 6月9日（火）

講師 : 岐阜市消防本部 山県消防署の皆さん

たかとみこども園では、年2回の保護者参観に合わせて家庭教育学級を行っています。テーマは保護者会で相談して決めています。

この日は、親子で七夕飾りづくりを行った後、年長の子どもと3歳以上児の保護者が、水難事故についての講話を聞き、心臓マッサージとAEDの演習を行いました。

県河川課の資料によると、平成15年～令和2年の17年間で、県内で起きた河川水難事故による死者数は292人となっています。死亡率が54%ととても高いことが示されました。

事故は川が大きく曲がっている場所で起きやすく、これはこのような場所には下向きの渦が発生しており、深い川底まで引き込まれるためであると説明がありました。浅い場所でもコケで滑ったり、段差で転倒したりしないように十分な注意が必要であることを学びました。



< 川での水難事故を防ぐために > 抜粋

- ① 一番よいのは「川で遊ばない」
- ② ライフジャケットの着用（からだにフィットし、股バンドがあるもの）
- ③ ②の状態を大人が必ず確認する
- ④ 大人が、川下で川の中に入り監視する

保護者の声

- ・助けに行った人も溺れたというニュースをよく目にするので、近くにある浮きとなる物を投げる入れるという対処法はしっかり覚えておきたいです。
- ・心臓マッサージは思ったより力があるし、コツがいるなあと思いました。手の組み方が難しかったです。
- ・思ったより難しく、実際あった時に、本当に対応できるかなと思いました。30回続けるのも大変でした。
- ・初めてのことばかりだったので、とても学びとなりました。いざという時は役立てられるようにしたいです。



事後アンケートは、二次元コードを活用した電子入力方式が使われていました！

講師： 県民生活課 生涯学習係（家庭教育担当）



＜怒りの6タイプ＞

- | | |
|-------------|---------------|
| ① 熱血柴犬タイプ | 曲がったことが嫌い！ |
| ② 白黒パンダタイプ | 優柔不断がゆるせない！ |
| ③ 俺様ライオンタイプ | ないがしろにされると爆発！ |
| ④ 頑固ヒツジタイプ | 違う価値観を認めない！ |
| ⑤ 慎重ウサギタイプ | マイナス思考でモヤモヤ！ |
| ⑥ 自由ネコタイプ | 制限されるとイライラ！ |

各小中学校の代表役員を対象とした研修において、「怒りとは何か」「怒りを爆発させない技術」「適切な叱り方」の3つの視点から、アンガーマネジメントについて学びました。

研修では、怒りを感じることで自体は決して悪いことではなく、その感情と上手に向き合うことで、親子関係にひびが入らないようにすることが大切であると学びました。また、怒りは二次的な感情であり、その根底にある感情が何かを自覚することの重要性についても理解を深めました。

さらに、怒りには6つのタイプがあることを学び、ワークシートを用いて自分がどのタイプに当てはまるのかを把握しました。その上で、タイプごとの怒りのコントロール方法についても学習しました。加えて、相手を怒りで変えようとするのではなく、「自分はこうあってほしい」という思いや願いを分かりやすい言葉で伝えることの大切さを知り、2つの事例を用いた演習に取り組み、より適切な伝え方の技術向上を図りました。

参加者の声

- ・子どもがかんしゃくを起しやすく、今朝も親子喧嘩をしてしまいましたが、それぞれの子どもの特性に合わせた接し方を考えなければならぬなあと思いました。
- ・子どもが3人いますが、みんな性格が違います。今朝ほども「分度器がいる」と突然言い出し、売り言葉に買い言葉で大きな喧嘩になってしまいました。お互い気持ちよく過ごせるようにしたいので、声のかけ方を考えたいと思います。
- ・子どもとよく喧嘩になります。子どもが何かで怒り出すと自分も衝動的な言動になってしまいます。上手に言葉で表現できず、感情だけでくるので、上手に受け止めてあげられるようにしたいと思いました。
- ・どうしても一番上の子を怒ってしまうことが多く、兄弟姉妹の前で怒ってしまうことがあるので、どんなものと迷いつつ叱っていますが、どうなのでしょう。

笠松町こども館

子育てサロン「親子でヨガ」

6月10日（水）

講師： エデュヨガおやこヨガ認定講師 山崎 有紀 氏



山崎氏によると、お子さんが1歳の頃に、親子で何か体を動かしたい！と思い、探して出会ったのがこの親子ヨガだそうです。そして、このサロンの講師を10年以上にわたり務めています。

この日は20組の応募定員いっぱいの親子が参加し、45分間ヨガに取り組みました。

この日、山崎氏から与えられたテーマは「見る」で、子どもの目を見て、親子のコミュニケーション、スキンシップをとるようにと声掛けがありました。ヨガはツールであり、子育てのポイントは「心身のふれあい」にあると考えられているようでした。

活動は、親子でポーズ、ママ同士でポーズなどふれあいを大事にしながら進められました。途中で動物や虫に例えたポーズも出てきて、「ゴリラ」や「ゾウ」に変身したり、ママ電車に乗ったりする子どもたちの素敵な笑顔、ママのやさしい眼差しが印象的でした。

今回の親子ヨガは、平日ということもあり、ママのみの参加でしたが、パパにも参加してもらえることを期待したいです。

参加者の声

- ・毎月のサロンには参加するようにしています。笑顔で怒らないように努めていますが、買い物などで外に出た時は、今日みたいに走り回ってしまうととても大変です。
- ・このようなイベントがないかと広報誌やSNSを気にして見るようにしています。ふだんは、公園へ午前午後と2回行って遊ぶようにしています。雨の日に行ける所があると助かります。
- ・今日は楽しく運動することができました。ベビースイミングに通っていますが、どこかに行かないとなかなか他のママさんと交流できないので、今日は皆さんと一緒でできてよかったです。
- ・とても楽しかったです。自分の親が調べて情報をくれるので、いろいろなところへ行っています。家では、絵本の読み聞かせをしたり、マラカスを振ったりして、なるべく子どもとふれあうようにしています。

講師：岐南町総合調理センター 栄養教諭 森 加奈 氏

西小学校では、主に1年生の保護者を対象にした食育講座・給食参観・試食会(約2時間)を実施しました。

最初に、森栄養教諭からセンターでの調理の様子が動画で紹介されました。野菜は4つの水槽で3回洗いしていることや、役割により調理員の白衣、エプロン、靴を色分けしており、行う作業により床も色分けしエリアを区切っているなど、安全安心な給食を提供するために細心の注意を払っていることが伝えられました。また、アレルギー対策として、代替食は専用の調理室で、専用の調理器具を使い、必ず複数で確認しながら調理していることが説明されました。

給食で得られるカロリーは、1日に必要なカロリーの1/3となっており、カルシウムについては摂取しにくい栄養素であるため、1日の必要量の1/2が摂れるようになっていることを教えていただきました。1日に必要な栄養を確保するために、朝食を抜くことが無いようにと指導がありました。そして、家庭における食育として、給食を親子会話のネタとしても活用してほしいとお話されました。

この日の給食のメニューテーマは、5年生の社会科の授業「国土の気候の特色(北海道)」に合わせ、北海道の郷土調理である美唄の鶏飯、どさんこ汁、ザンギ、北海道産かぼちゃのプリン、牛乳でした。



保護者の声

- ・子どものおやつの量が多すぎるのが分かりました。子ども任せにしておくと、あればあるだけ食べてしまうので、与える量を気を付けなければならないと思いました。
- ・時間的な余裕がなくて、作り置いたものを食べさせることが多いです。子どもの成長のことを考えたメニューで食事ができるようにしてあげたいです。
- ・大きな攪拌しゃもじでの調理、野菜洗浄3回など、調理員さんたちの努力に感謝です。カルシウムが不足気味ということで、残りの50%分を家庭でどのように摂らせようかと考えています。
- ・うちの子は食べず嫌いなどところがあり、メニューがどうしても子どもの好きな物ばかりになっているので、今日教えていただいた「一口チャレンジ」を実践したいと思います。

「話そう!語ろう!わが家の約束」運動 のすすめ!

運動の取組方法

- ① 家族で話し合って「わが家の約束」をつくります。
- ② 取組を実践カードに記録します。
- ③ 実践中や実践後に家族で互いの思いを伝えます。
- ④ 次の約束を話し合います。

どんな約束をつくればいいの?

例えば...

- 家族みんなで早寝早起き
- 家でも大きな声で挨拶
- 家族みんなでそろって食事
- 一日一回家族のよさを伝え合う
- 「ありがとう」の気持ちを伝え合う

子どもだけでなく、家族みんなの約束になるように工夫しましょう。

(例:「(お父さん・お母さん・子ども)は
〇〇するよ。」
「家族みんなで〇〇しよう。」)

家庭教育学級リーダー研修会の折にもお話しましたが、本運動は、親子の会話やふれあいの時間を少しでも増やして、親子の絆を深めていただきたいという願いのもと薦めている取組です。

基本的な取組方法は、左図の示すとおりですが、願いに沿った取組であれば、アレンジしていただいて結構です。

< 基本形以外の取組例 >

- ・親子で一緒に料理をつくる。
- ・家族みんなで〇〇をする。
(運動、ゲーム、ボランティア、新聞記事やテレビニュースに対する意見交流 など)
- ・「ありがとう三行詩」「あったかい言葉がけ運動」に親子で取り組み、交流する。

案内文書や実践カードの電子データは、岐阜県のHPに掲載してありますので、ダウンロードしてお使いください。

URL: <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/27355.html>



啓発リーフレットの電子データの配信は、7月上旬を予定しています。申し訳ございませんが、各園・学校にて印刷、またはデータ配信していただき、保護者様の手に届けていただきますようお願いいたします。

「プログラミング学習」ってご存じですか？

近年、学校では「プログラミング学習」というものが行われています。「将来プログラマーになるための学習？」といった疑問をお持ちになれる保護者の方もいらっしゃると思いますが、小中学校で行われるこの学習の目的は、コンピュータの専門家を育てることではありません。

プログラミング学習で大切にしていることは、「自分で考え、試し、うまくいかなければ工夫して直す」そんな力や態度を育てることです。これは、これからの社会でどんな仕事や生活をする上でも必要となる力だからです。

小学校では、特定の教科として「プログラミングの授業」を行うわけではありません。算数や理科など、各教科の学習の中で体験的に取り入れています。例えば、算数だと「図形を描く手順や順番を考える」理科では「条件を順に変えることによって、結果がどのような変化するかを調べる」「身の回りの家電や機械が、どのような仕組みで動いているかを考える」などの活動を通して、【物事を順序立てて考える力】【必要な手順に分けて考える力】【失敗してもやり直して再チャレンジしようとする気持ち】を育てています。

中学校では、技術・家庭科の中で、より体系的にプログラミング学習について学びます。「コンピュータやネットワークの基本的な仕組み」「プログラムの基本的な考え方」「情報を正しく、安全に扱うためのルールやモラル」について学習します。

また、「どうすれば困っていることを解決できるか」を考え、設計 → 実行 → 改善のサイクルをくり返す学習にも取り組みます。これらは、将来どんな分野に進むことになっても役立つ「問題解決力」につながります。

繰り返しになりますが、**プログラミング学習で育まれる力は【自分で考え、行動する力】【試行錯誤を前向きにとらえる力】【情報や技術を正しく使おうとする態度】**です。

<家庭でも行えるプログラミング学習>

○家族旅行の計画は「最強のプログラミング教材」

家族旅行の計画には、プログラミングと同じ思考プロセスが詰まっています。

- ・行き先を決める（目的の設定）
- ・予算や日程を考える（条件の整理）
- ・移動手段や順番を考える（手順の設計）
- ・雨が降ったらどうするか考える（条件分岐）
- ・実際に行って見て振り返る（デバッグ・改善）

これらを子どもに任せることで、「どうすればうまくいか」「何が問題になりそうか」を自分で考える力が自然に育ちます。



○食事作りは「アルゴリズム体験」の宝庫

食事作りもまた、プログラミング的思考を鍛える絶好の機会です。

- ・冷蔵庫の中身を確認する（情報収集）
- ・メニューを決める（計画）
- ・手順を書き出す（アルゴリズム化）
- ・火加減や時間を調整する（条件処理）
- ・失敗したら次はどうするか考える（試行錯誤）

レシピ通りに作るだけでなく、「どうすればもっと早く作れる？」「材料が足りなかったらどうする？」と問いかけることで、問題解決力と論理的思考力が高まります。



家庭での学習の最大のメリットは「正解が一つではないこと」です。学校の問題と違い、家庭生活には一つの正解はありません。だからこそ子どもは、自分の考えを試す、失敗から学ぶ、改善するという、プログラミングで最も大切な学習プロセスを安心して経験できます。

保護者の役割は「教える人」ではなく「伴走者」です。専門的な知識は必要ありません。大切なのは、「どう考えたの？」と内にあるものを聞き出してあげる、「他に方法はあるかな？」と一緒に考えることです。結果より過程を認めることで、子どもは「考えることの楽しさ」を感じてくれるようになるはずです。

ぜひ、お子さんと一緒に考える時間を楽しんでください！